Bio2Qへのご支援

趣意書

私たちのミッション
生命科学的な探究を通じて、ウェルビーイング（幸福）社会を実現します。ヒトの健康維持に関する制御機構解明の画期的な進展につながる新たな融合研究領域を創出し、長期的には、健康長寿社会の実現に繋がる新しい疾患の予防・治療方法を開発することを目指しています。

研究計画と特徴
Bio2Qでは、多臓器とマイクロバイオーム（微生物叢）の相互作用を理解するため、新規性のある研究技術を開発・発展させるとともに、量子コンピューティングのヒト生物学への応用方法を開発しています。
マイクロバイオーム研究・オルガノイド技術・代謝物解析・神経回路解析・量子コンピューティングの世界的リーダーが集結し、グローバルに競争力のある組織を構築し、多様な研究者チームを惹きつけることに全力を注いでいます。

研究目標
1. ヒト多臓器多次元データ解析コア、多臓器円環機構解析コア、量子コンピューティングコアの3つの研究コアユニットを統合した融合研究の推進
2. 人工知能（AI）・量子コンピューティング技術の応用による、ヒト生物学への理解の深化
3. がん、糖尿病、肥満、精神神経疾患、発達障害、免疫疾患、老化、百寿者に関する包括的・経時的な臨床サンプル・データの活用
4. 医学研究科・薬学研究科・理工学研究科の3つの大学院研究科による横断連携大学院英語プログラムの設立

具体的な研究成果目標
- ヒトおよびヒト化モデルの多臓器マルチオミクスデータを蓄積し多次元データベースを構築する
- マイクロバイオーム由来代謝物の構造および機能を分子および細胞レベルで解明する
- イメージングメタボロミクスおよび構造解析技術の精緻化し、宿主およびマイクロバイオーム由来臓器・細胞のin situ（局所）レベルでの代謝物の機能解析を促進する
- 量子コンピューティングを用いたアルゴリズムおよび実行パイプラインの開発し、多次元データベースにおける多臓器間や多菌体間の複雑な相互作用と因果関係を解析する
- オルガノイド技術やヒト化モデルの発展による環境と生体の境界面のモデル化できる研究アプローチ法を確立し、外部環境変化の内部シグナルへの変換機構を解明する
- コネクトミクスと構造生物学を組み合わせた腸脳連関をはじめとする多臓器円環メカニズムを解明する

組織体制
Bio2Qの意思決定プロセス
- Steering Committee(運営委員会)：拠点ならびに関連部署による拠点運営に関する連絡・調整・実施支援のための拠点長の諮問会議
- Executive Committee(執行委員会)：拠点の執行に関する会議

事務局体制
- サンペトラ オルテア（事務部門長/PI 特任教授）
- 駒村 純太（信濃町キャンパス学術研究支援課（WPI担当） URA）
- 事務局員　数名

資金計画と寄付の使途
事業の必要経費: 年間7億円
ご寄付の使途:
- 融合研究推進
- 研究環境の整備
- 研究者の人材育成
- 研究拠点の管理運営
- 全世界に向けた研究成果等の情報発信などの社会貢献活動　等

税制上の優遇措置
慶應義塾に対するご寄付は、特定公益増進法人への寄付として、所得税法（個人の場合）や法人税法（法人の場合）上の優遇措置（寄付金控除または損金算入）を受けることができます。詳しくは慶應義塾大学基金室のホームページでご確認いただけます。
個人での寄付の場合
法人での寄付の場合
米国からの寄付の場合
受益者指定寄付金を希望の場合

寄付申込上の留意点　公職選挙法等の法令により寄付が禁止されている方や、未成年の方は募集の対象になりません。

寄付者への特典
- 定期的なBio2Q拠点活動の共有
- 寄付金活用の状況と成果の報告
- 各種Bio2Qイベントへの参加（計画中）

慶應義塾と Bio2Q の歩み
慶應義塾は1858年、福澤諭吉が江戸に開いた蘭学塾から始まりました。創立から160年を超え、現在は小学校から大学・大学院までを擁する、日本で最も長い歴史を持つ総合学塾の一つとして幾多の人材を輩出しています。学問、とくに「実学」の重要性を説いた福澤の志と理念を受け継ぎ、教育、研究、医療を通じた社会へのさらなる貢献を目指します。
※実学
福澤がいう実学はすぐに役立つ学問ではなく、「科学（サイヤンス）」を指します。実証的に真理を解明し問題を解決していく科学的な姿勢が、義塾伝統の「実学の精神」です。

Bio2Qは、2022年度に文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」に私立大学として初めて採択されて設立された研究拠点です。日本で初めてのマイクロバイオーム研究拠点として、従来の生物学的分析手法と量子コンピューティング技術を用い、マイクロバイオームとヒトとの複雑な相互作用を分子レベルで解明し、健康長寿社会の実現に貢献します。

Bio2Qの研究活動推進のため、人類の未来を見据えた医学研究の推進、発展のために、皆様の温かいご支援を切にお願いいたします。